教師および保護者が重視する小・中学校教師の行動とは？
—日本・アメリカ・カンボジアの 3 国間比較による検討—

出口拓彦（奈良教育大学）

キーワード：教師，保護者，指導

目　的

本研究では,「子どもたちに対する小・中学校教師の行動」への，教師自身や保護者による重要性の認知について,国家間比較等によって検討した。

方　法

調査対象者および手続き

日本・アメリカ・カンボジアの小・中学校の教師（順に 170, 136, 150 名），と児童生徒の保護者（170, 109, 150 名），計 885 名を対象に調査を行った（加えて，アメリカの高等学校教師と保護者計 95 名も対象としたが分析からは除外した）。日本とアメリカは WEB 調査を実施し（日本能率協会総合研究所に委託),カンボジアは訪問調査を行った（クロスインデックス社に委託)。

測定した変数

１．教師の行動　カンボジアの「Curriculum Framework of General Education and Technical Education」（Department of Curriculum Development, 2016），日本の「教職課程コアカリキュラム」(教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会, 2017）等を参考に，計 16 項目を作成した(Table 1 参照)。まず，各項目について 6 段階評定で重要度の回答を求め，次に，特に重要と思う項目を 5 つ順番に記載するよう依頼した。

２．居住地域　都市部・農村部という 2 つの選択肢から 1 つを選択するよう求めた。

結果と考察

指標の算出

「教師の行動」に関する各項目の平均値と標準偏差を算出したところ，天井効果が発生していると考えられた。このため，特に重要と思う項目として 1 番目に挙げられた項目を 5 点，2 番目を 4 点…と得点化して 1.2 を乗じ（最高 6 点)，これを 6 段階評定の値に加算したものを指標とした。

「教師の行動」の分類および国家間比較

階層クラスター分析を行い，教師の行動を 5 つに分類した(Table 1)。さらに，3 国間で，各クラスターの割合を比較した(Table 2)。その結果，全体的な傾向として，日本はクリシン型と生徒指導型，アメリカは協働型（およびクリシン型)，カンボジアは堅実型と協働型の割合が高かった。

また，国ごとに居住地域間の比較を χ 自乗検定等により行ったところ，都市部のカンボジア教師は協働型(30%)が多い一方で,農村部では堅実型が多い(40%)傾向が示された。他の国や保護者については,居住地域による顕著な差は見られなかった。

Table 1 教師の行動に対する重要性認知のクラスター分析(Ward法，平方ユークリッド距離)結果

質問項目(一部略記)	全体 平均	全体 *SD*	クリシン型	堅実型	キャリア型	生徒指導型	協働型
a.「物事を，詳しく正確に，いろいろな見方をして考える能力」を育てること	7.57	2.83	a. 10.67	k. 11.19	o. 10.72	d. 7.62	e. 7.49
b. 責任感を養うこと	6.62	2.50	f. 7.12	a. 6.81	a. 8.15	h. 7.20	g. 7.39
c.「良い・悪いを判断する能力」や「社会のルールやきまりを守ろうとする気持ち」を育てること	6.44	2.45	b. 7.03	e. 6.53	b. 6.90	b. 6.58	f. 7.09
d.「いじめ」や「暴力行為」に対処すること	6.42	2.49	c. 6.66	b. 6.51	e. 6.56	a. 6.45	j. 7.08
e.「学習に対するやる気」を高めること	6.42	2.36	i. 6.61	h. 6.28	d. 6.53	c. 6.42	m 6.68
f. 様々な意見や考え方を認めて，これを大切にする態度を養うこと	6.40	2.35	g. 6.10	c. 6.15	k. 6.29	l. 6.08	i. 6.67
g.「上手に自分の意見を言ったり，他の人の話を聞いたりする能力」を育てること	6.16	2.21	e. 6.05	l. 6.03	n. 6.10	f. 5.60	c. 6.62
h. きちんとした生活習慣を身につけさせること	6.10	2.26	m 5.98	n. 6.02	l. 6.01	e. 5.47	p. 6.35
i.「子どもたちが自分自身で，わからないことを調べたり，解決したりする能力」を育てること	6.08	2.30	h. 5.84	d. 6.00	c. 5.92	n. 5.46	b. 6.23
j. 子どもの心の健康を保つ力や，子どもたちの相談を上手に聞いて解決すること	5.92	2.16	d. 5.84	i. 5.84	h. 5.74	k. 5.41	n. 6.17
k. 子どもたちに授業の内容を効率よく覚えさせること	5.91	2.61	n. 5.55	p. 5.78	f. 5.72	g. 5.39	l. 6.10
l. 子どもたちがお互いに仲良くなるように指導すること	5.90	2.17	p. 5.48	j. 5.69	p. 5.60	j. 5.36	a. 5.98
m. 身体が不自由な人など，特別な支援を必要とする人が，授業の内容をきちんと理解できるように教える	5.87	2.32	j. 5.43	f. 5.69	j. 5.50	m 5.31	d. 5.97
n. 子どもたちの学力を，正確に評価すること	5.81	2.09	l. 5.37	g. 5.67	i. 5.48	i. 5.24	h. 5.43
o. 子どもの進学や就職に関する指導をすること	5.80	2.36	k. 5.19	m 5.34	g. 5.42	o. 5.24	o. 5.30
p. 子どもたち同士で協力して学習をさせること	5.65	1.86	o. 5.10	o. 4.79	m 5.23	p. 5.00	k. 4.82

※下線は，クラスター別の平均値が6.00以上であることを示す。

Table 2 教師の行動に対する重要性認知の国家間比較(教師・保護者別)

		教師 クリシン型	教師 堅実型	教師 キャリア型	教師 生徒指導型	教師 協働型	教師 合計	保護者 クリシン型	保護者 堅実型	保護者 キャリア型	保護者 生徒指導型	保護者 協働型	保護者 合計
日本	度数	55	7	12	55	35	164	37	15	9	68	37	166
	割合	.34	.04	.07	.34	.21	1.00	.22	.09	.05	.41	.22	1.00
アメリカ	度数	41	2	12	26	54	135	27	4	17	22	37	107
	割合	.30	.02	.09	.19	.40	1.00	.25	.04	.16	.21	.35	1.00
カンボジア	度数	29	38	26	20	37	150	18	29	22	29	52	150
	割合	.19	.25	.17	.13	.25	1.00	.12	.19	.15	.19	.35	1.00

※教師・保護者ごとに χ 自乗検定を行った結果，共に $p < .01$。下線は，その国の中で最も割合が高かったもの。

付　記

本研究は,「カンボジア国教員養成大学設立のための基盤構築プロジェクト（第 1 年次)」の援助を受けた。また，測定にあたり，著者の所属機関における「人を対象とする研究倫理審査委員会」の事前承諾を得た。